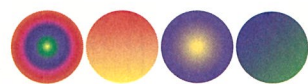


県民と県政のネットワーク誌

1999
春季号

ほっと石川



出番を待つ子供たち

[特集]

いしかわマルチメディアスーパーハイウェイ



●お知らせ	2
「桃山時代の美術」	
●特集 いしかわマルチメディア スーパーハイウェイ	3
行政情報の受発信を 県内均一料金で可能に	
●皆さんの声を県政に	6
いしかわ夢づくりレター	
●インタビュー	8
落語家 柳家一九さん	
●知事の窓	9
●ほほえみ	9
春蘭の里実行委員会	
●学びらんど	10
中高一貫教育	
●ほっとニュース	11
石川ジャパニーズセミナー	
●県政ウォッチング	12
石川県畜産総合センター	
●市町村トピックス	
七尾市	14
美川町	15

■表紙について

松本市在住の画家、西のぼるさんに今号から4回の予定で表紙絵をお願いしました。石川県に伝わる伝統行事や祭りを題材に絵を描いていただきます。

西のぼるさんは、1946年、珠洲市生まれ。独習で絵と装幀の世界に入り、時代小説の挿絵を書き始めました。

93年、「妖櫻記」(週刊文春)の挿絵で、日本文芸家クラブ大賞受賞。ラブロ片町にて、「西のぼるの世界」展開催。95年、石川近代文学館・夏季特別展「挿絵と装幀の世界—西のぼるのすべて—」展開催。96年、加賀市立図書館にて、「装幀への旅—西のぼる装幀」展開催。そのほか、東京、名古屋、長崎、松任にて展覧会開催。

著書にエッセイ集「さし絵の周辺」、共著に「能登の細道」があります。97年、珠洲市文化功労賞受賞。

前田利家没後四〇〇年
利家が生きた

桃山時代の美術

石川県立美術館

平成11年4月24日(土)～5月23日(日)

午前9時30分～午後5時

(会期中無休・入館は4時30分まで)

会期中、前期(4月24日～5月8日)と
後期(5月9日～5月23日)で展示替えを予定。

観覧料 ■ 一般 1,000円(800円)

大学生 600円(400円)

高中小生 300円(200円)

(一)内は団体料金20人以上

お問い合わせ ■ 石川県立美術館

〒920-0963

金沢市出羽町2-1

☎076(231)7580



石川県指定文化財 前田利家画像(部分)

戦国から桃山時代の激動期にかけて活躍し、加賀藩の基礎を築いた前田利家。その没後400年にちなんで石川県立美術館では桃山時代の美術・工芸品を一堂に集めた展覧会「桃山時代の美術」を開催します。同展は、重要文化財25点を含む約160点で、狩野永徳や長谷川等伯をはじめとする屏風絵、志野や織部などの茶陶に高台寺時絵・辻が花染・茶の湯釜、能装束、肖像画などを公開します。



お旅祭り

今回の表紙のテーマは小松市のお旅祭り(5月13日～16日)。この祭りは小松市の菟橋神社と日吉神社で行われる春季例祭で、子供たちが歌舞伎を演じる曳山歌舞伎が上演され、近世の町文化を今に伝えています。

小松市では、滋賀県長浜市と埼玉県小鹿野町から子供歌舞伎を招き、お祭り期間中の5月15日、同市公会堂で、「全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松」を開催します。入場は無料。時間は正午から。

特集

いしかわマルチメディア スーパーハイウェイ

「いしかわマルチメディアスーパーハイウェイ」。あまり耳慣れない言葉だと思えますが、これは、県民が通信回線で行政サービスを利用する際、地域によって生じる料金格差を解消するために、現在、県が整備を進めているものです。

今年3月からモデル事業が輪島、金沢、小松でスタートしました。新県庁舎完成時の本格運用に向けて、提供する情報内容の充実などに努めていきたいと考えています。

行政サービス利用の際の 通信料金の地域格差を解消

石川県は南北に約二百キロと細長い地形をしており、県庁所在地の金沢市と各地域間との通信料金は、珠洲市が三分間で八十円、七尾市が同五十円、小松市が同二十円となっています。

県民の皆さんが通信回線で利用できる県の行政サービスには、県立図書館への蔵書の問い合わせや予約、福祉事務所等への電話相談など数多くあります。

大容量通信ネットワークを構築し、
行政情報の受発信を
県内均一料金で可能に!



これまでは、金沢市から遠隔地になればなるほど、この通信料が高くなっていました。が、「いしかわマルチメディアスーパーハイウェイ」では、こうした地域格差を解消し、県内どこからでも均一な料金で気軽に行政サービスを利用してもらうことを目指しています。

モデル実験事業では、輪島、金沢、小松にアクセスポイント（AP）を設け、輪島—金沢—小松間を光ファイバーケーブルで結びます。そして、県の出先機関や施設は、最寄りのアクセスポイントとデジタル回線で結び、マルチメディアスーパーハイウェイを経由して情報のやりとりをします。

いしかわマルチメディアスーパーハイウェイは県の専用回線で、アクセスポイントまでの費用はかかるものの、スーパーハイウェイを経由しない場合と比べると大幅な通信料金の低減が図れます。

**本格運用は
新県庁舎完成時から**

モデル実験は農業情報システム、視覚障害者情報ネットワーク、生涯学習情報提供システム、図書館マルチ検索・予約システム、スクールネット、介護支援総合情報ネットワークシステム、保健情報ネットワーク等のシステムを使用しています。

農業情報システム、視覚障害者情報ネットワーク、生涯学習情報提供システム、図書館マルチ検索・予約システムの実験運用は始まっており、スクールネットは今年五月から、

介護支援総合情報ネットワークシステムと保健情報ネットワークは今年十月から実験を始める予定です。

本格運用が開始される新県庁舎完成時には、県内に八カ所あるN-T-Tの交換局エリア（エリア内の通信料は三分十円）ごとにアクセスポイントを備え、県内どこからでも均一料金で情報の受発信が可能となります。アクセスポイントは先の三カ所に加えて、能都、七尾、羽咋、鶴来、加賀地域に設置される予定です。

**行政施設と家庭とを結ぶ
ネットワークの構築が目標**

県情報政策課では、学校、図書館といった県や市町村の行政施設と各家庭とがいしかわマルチメディアスーパーハイウェイを介して自由にアクセスできるネットワークを築いていきたいとしています。

マルチメディアの発達にともなって、パソコンや携帯通信端末などさまざまな情報通信機器が家庭に普及しています。そうした機器を使って家庭と行政とをつなぐネットワークが形成されれば、わざわざ外出することなくいつでも手軽に、家にいながらにして行政から発信されるさまざまな情報を利用することができます。

いしかわマルチメディアスーパーハイウェイの整備はそうした社会の変化にタイムリーな効果をもたらすものと言えるでしょう。

行政サービスの飛躍的な向上、利便性の拡大が期待されます。

お問い合わせ
企画開発部情報政策課
☎ 076(223)9096 FAX 076(223)9373



ライブラリーネットいしかわホームページ

ライブラリーネットいしかわ

石川県立図書館がインターネットで蔵書の検索・予約を可能に



県民がインターネットを通じて複数の図書館の情報を検索できる「ライブラリーネットいしかわ」の運用が去る3月2日から始まりました。県立図書館の全蔵書約50万冊の貸出状況の確認や貸出予約、19市町村立図書館の平成7年以降に購入した蔵書の検索などが家庭にいながらにして可能となっています。なお、貸出予約サービスを受けるには、あらかじめ、県立図書館への利用登録が必要です。

●インターネットホームページアドレス
<http://www.library.pref.ishikawa.jp/>
(利用時間 8:00~22:00)

●お問い合わせ
石川県立図書館 ☎076(223)9581

保健情報ネットワーク

県内8カ所の保健所・地域センターと県衛生総務課、厚生省とを結び、医療機関行政情報や感染症検査情報、食品衛生に関する情報などを各保健所から検索できます。

農業情報システム

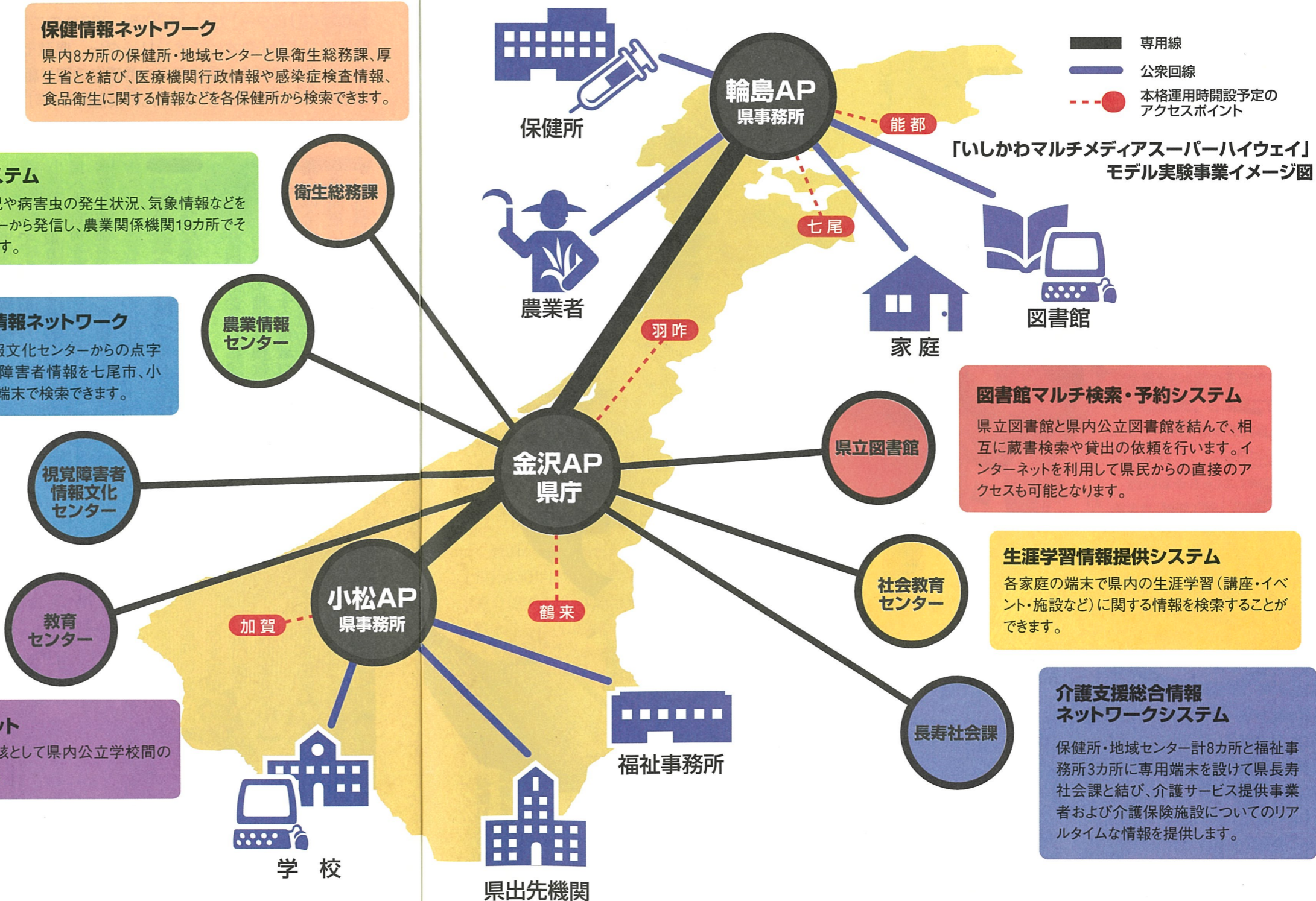
水稲の生育状況や病虫害の発生状況、気象情報などを農業情報センターから発信し、農業関係機関19カ所での検索が可能です。

視覚障害者情報ネットワーク

視覚障害者情報文化センターからの点字図書情報、各種障害者情報を七尾市、小松市に置かれた端末で検索できます。

スクールネット

教育センターを核として県内公立学校間の交流を行います。



「いしかわマルチメディアスーパーハイウェイ」モデル実験事業イメージ図

図書館マルチ検索・予約システム

県立図書館と県内公立図書館を結んで、相互に蔵書検索や貸出の依頼を行います。インターネットを利用して県民からの直接のアクセスも可能となります。

生涯学習情報提供システム

各家庭の端末で県内の生涯学習（講座・イベント・施設など）に関する情報を検索することができます。

介護支援総合情報ネットワークシステム

保健所・地域センター計8カ所と福祉事務所3カ所に専用端末を設けて県長寿社会課と結び、介護サービス提供事業者および介護保険施設についてのリアルタイムな情報を提供します。



「いしかわ夢づくりレター」へのご提言 ありがとうございました。 さらに開かれた県政の推進に努めます。

石川県では、県民の皆さんの声を行政に反映させるための広聴活動に力を入れています。昨年、募集した「いしかわ夢づくりレター」では、170通、207件のご提言をいただきました。また、県民と知事との懇談会「ほっと石川県民のつどい」やオピニオンリーダー、県政モニターからも、それぞれ貴重な政策提言を受けました。今回は、皆さんの声に対する県の考え方や現在の取り組みなどについて、説明をさせていただきます。開かれた県政づくりに向けて、今後とも、皆さんの積極的な「声」をお願いいたします。

「高齢者・障害者施設でのボランティア活動など、ゆとりの時間や夏・冬休み期間を利用した子どもの体験活動を、学習の中にもっと取り入れられないか」
答え 体験活動は、「心の教育」を推進する上でも重要だと考えます。十一年度から高校生の学校外におけるボランティア活動や就業体験などで一定の条件を満たすものについて、学校の単位として認定できるようにします。

「部心部の活性化策として、石川県庁舎の跡地には、スポーツセンターや老人ホームなどを建設してはどうか」

答え 県庁移転跡地の利用については、今年度実施されたご意見をはじめ、九年度にも実施した県民意向調査などの結果や民間からのご提言に配慮し、金沢市と共同で設置する、有識者からなる懇談会において、さまざまな観点から検討と議論をいただきながら、跡地の有効適切な活用策の具体化を図っていきます。

「これから建築する公共施設には、ソーラーコレクターや太陽電池などを設置し、クリーンエネルギーの手本を示してほしい」

答え 今年、完成予定の県営あすなろ住宅で、試験的にソーラーコレクターを取り入れて建設しています。地球環境への負荷を軽減するクリーンエネルギーの普及と意識啓発に、今後とも努めていきます。
*太陽光発電システム

「石川県で地域づくり全国大会のような交流会を開催してほしい」

答え 全国で町おこしに頑張る各種団体との交流や情報交換は、とても有意義なことです。地域づくり団体全国協議会の全国研修交流会を、平成十五年の能登空港開港に合わせ、能登地区で開催できないか、検討していきます。

「能登空港は完成後の利活用方策が肝心です。県の取り組みと今後の方向性をうかがいたい」

答え 県では、能登地域の十九市町村で構成する能登空港建設促進期成同盟会と一体になって、①観光 ②農林水産 ③保養・福祉 ④交流・イベントの四つのテーマに沿って、実効性のある利活用策を検討し、その一環として観光モニターツアーや小松空港を利用した試験空輸を行っております。
また、開港を念頭に置いて、新たな地域づくりのための計画を策定中です。



「平成十二年度から介護保険がスタートしますが、ヘルパーが不足しないよう、人材養成には特に力を入れて取り組んでほしい」

答え 県では、介護保険制度にも対応できる質の高いホームヘルパーの養成が必要と考えています。十年度は、県内六カ所まで二級ヘルパーの養成講座を開設したほか、県内二カ所において、ヘルパー登録者の中で活動実績の少ない方々を対象にした最新の介護技術を習得していただく研修会などを開催しています。
十一年度以降も、ホームヘルパーの確保に向けて、全力で取り組んでまいります。

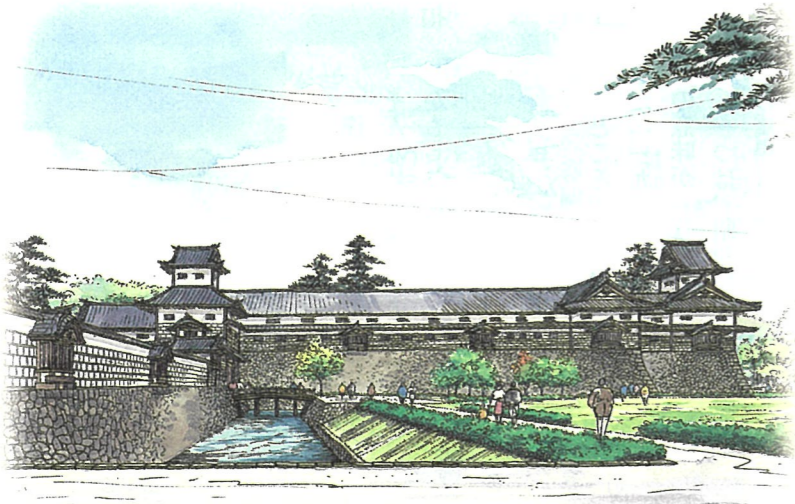
「子育ての負担を軽減するため、育児相談や子どもの一時的保育ができる子育て応援センターを設置してほしい」

答え 県では、保護者の疾病や冠婚葬祭、育児リフレッシュなどの理由により、一時的に保育所子どもを預かる「こどもデイサービス事業」を展開しています。また、地域の子育て家庭に対する育児相談や子育てサークルの支援を行う「地域子育て支援センター」の設置に努めており、今後も支援センターを増設していく方針です。



「金沢城天守閣の復元は、石川県の新たなシンボルとなり、観光振興の面からも大きな効果が期待される」

答え 金沢城本丸天守閣は、一六〇二年の落雷で焼失し、その後、歴代藩主は、二の丸御殿で政務を執ったと言われています。当時の天守閣の資料は、残念ながら皆無の状況であり、復元は困難な状況です。県では、二の丸において、菱櫓（ひしやぐら）・五十間長屋（ごじっけんながや）・橋爪門続櫓（はしづめもんつづきやぐら）を復元することにしており、兼六園と並ぶ加賀百萬石のシンボルになると期待しています。



復元イメージ図



ふるさと訛りに誘われ
行った先が落語クラブ

落語家になるきっかけは、親元を離れ、慣れない大学生活で偶然聞いたふるさとの懐かしい訛りでした。キャンパスを歩いていたら、クラブの新人部員勧誘があり、そこで最初に声をかけてくれたのが、富山県出身の先輩だったんです。



落語家 柳家 一九さん

■プロフィール

昭和32年、石川県宇ノ気町生まれ。55年、東海大学工学部を卒業後、柳家小さん一門の柳家小満さんに弟子入り。58年4月、二つ目に昇進し小満女（こまめ）、平成7年3月、真打ちに昇進し一九と改名、現在に至る。趣味は、川柳と絵手紙、ゴルフ。東京都在住。

真打ちとして活躍する落語家・柳家一九さんのふるさととは、石川県宇ノ気町です。故郷を後にして約20年、古典落語に力を入れ、人情噺の世界へお客さんを引き込む一九さんに、落語との出会いや石川県の思い出などをうかがいました。

故郷の人情は古典落語に通じる

同じ北陸人ということでは、つと、その先輩に連れていかれた先が、落語クラブだったというわけです。

それから二ヵ月後、初めて上がった高座は、緊張して噺を間違え、笑わせているというより、笑われているような感じでした。いま思い出しても冷や汗の出るさんざんなデビューでしたが、下手にもかかわらず、たくさん拍手をいただきました。

これが病みつきになってしまいい、とうとう大学卒業と同時に、師匠の柳家小満さんのもとへ弟子入りする羽目になったんです。

ほろりとさせる 古典落語が好き

落語というのは、決して人を笑わせるだけのものではありません。人間の喜怒哀楽を語る話芸が原点であり、ほろりとする人情噺が古典落語の中にはたくさんあります。

石川県を離れてからもう二十余年余りがたちましたが、僕の田舎には、落語の世界に出てくるような人情がまだ残っていたように思います。近所づき合いなど、子供のころわずらわしく感じられたことが、この年齢になると、温かくていいなと思えるようになりました。



玉すだれを披露する一九さん。「私の余芸で、落語家すべてがやるものではありません」

僕が、古典落語を好きなもの、そんな体験が根っこにあるから、かもしれないね。

二つの「一九」に あやかりたい

ところで、師匠が勧めてくれた「一九」という芸名には二つの意味があります。

一つは、昭和初期まで金沢市の橋場町界隈にあった「一九亭」という寄席の名前です。一九亭には、名人とうたわれた古今亭志ん生や桂文楽が若いころ、出ていたそうです。もう一つは、「東海道中膝栗毛」でおなじみの十返舎一九です。十返舎は、噺本の作者としても活躍し、江戸落語の発展に貢献しているんです。最近寄席の数が少なくなっていますが、僕の夢は、ご虫屋を三百六十五軒つくり、年一回ずつ、そのお宅で寄席を開くことです。人情噺にはもってこいのアットホームな高座だと思いませんか。



檜の復元と 二つの楽しみ

石川県でできるという点です。

このため、復元工事にあたっては、建築に欠かせない九つの職種団体が協議会をつくり、一連の作業工程を詳細に記録していきます。同時に、優れた技能を持つ職人や意欲のある若手を発掘し、史実に沿って、昔ながらの工法で進める現場への参加の中から、高度な技術とノウハウを吸収してもらおうという計画です。

せつかくの機会ですから、一生懸命に腕を磨き、伝統建造物の復元や修復の際には、全国どこからでも声のかかる技能集団になってもらいたいですね。そうなれば、ビジネスチャンスもきつと大きく広がるはずですよ。

『温故知新』という諺がありますが、石川県の個性である伝統文化の中に、新しいチャンスを生み出す種子やヒントがたくさん詰まっている。そんな気がします。



ハウスではプランターで春蘭を栽培している



春蘭の発送作業を行う実行委員メンバーら (写真提供/北国新聞社)



目標は「春蘭の里」の整備

沿岸部の宇出津から柳田村方面の山間地に車で約二十分ほど入ったところに能都町宮地地区はあり、そこに春蘭の里実行委員会が発足したのは平成八年八月のことです。

山間に自生し、これまで見過ごされていた春蘭を村おこしに生かそうと三十代から六十代の会社員、自営業者ら七人が実行委員となって栽培用の畑とハウスを地区内の田地に設け、春蘭の栽培を始めました。

メンバーは株分けして栽培した春蘭の一部を山にもかえしており、地域の美しい自然を保全

春蘭の里実行委員会 (能都町宮地)

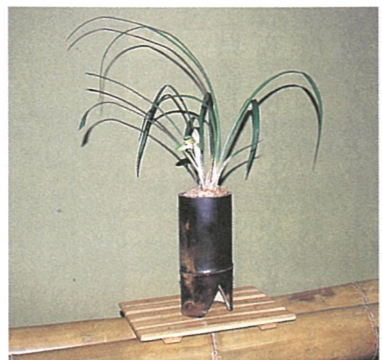
春蘭をシンボルに 村おこしに取り組み

する一方で、平成十五年に開港する能登空港からごく近いというメリットを生かして、地区を「春蘭の里」として整備することを目指しています。

中本安昭会長は「地区の山間に春蘭の観察ドームや遊歩道などを整備した『春蘭の里』を作るのが自分たちの夢。多くの人々が水や緑と触れ合える場所に、町の活性化にもつなげていきたい」と話します。

栽培した春蘭を全国へ

愛好者に春蘭の株を送る会員制度もつくり、全国に会員の輪が広がっています。年会費は一万五千元で、四月



春蘭。黄緑色の花を4月から5月にかけて咲かす

上旬に春蘭を、秋にはぎざ干した地元の米二升や椎茸、冬には餅、正月飾りを送っています。メンバーの自宅を利用して「春蘭の宿」という民宿も昨年三月にオープン。木工炭焼き、日本酒や果実酒の醸造など、地元産業、資源を生かした「春蘭の里」ブランドの特産品の開発にも取り組んでおり、実行委員会メンバーらの地域おこしに力ける強い熱意がうかがえます。

【お問い合わせ】

春蘭の里実行委員会事務局
TEL 0768(67)8001
夜間
0768(67)2477(中本宅)



地域の特色を生かしたゆとりのある学校づくり

中高一貫教育

門前、富来の五校をモデルに
実践研究

中学、高校の六年間を通じたゆとりある教育の実現を目指して、県教育委員会では、昨年五月から門前町と富来町の高校二校、中学校三校をモデル校に、中高一貫教育の実践研究を進めています。

門前町では、門前高校と門前中学校、七浦中学校とが、富来町では富来高校と富来中学校とが連携して中学、高校間で授業や部活動、教員の交流を図る一方、地域文化の学習や高校の入学試験の見直しなども行い、地域の特色を生かした学校づくりに取り組んでいるところだ。

文化祭や部活動で生徒交流

門前町では、昨年九月に行われた門前高校文化祭に門前中学校、七浦中学校の生徒らが参加し、その中で行われた合唱コンクールを「難しい歌をすてきに歌いこなせられるのすごいと思いました」「来年は自分があるそこに立つのかと思うと少しドキドキします」との声が聞かれました。また、十一月の門前中学校の合



門前中学校、七浦中学校の生徒が門前高校でそば作りのボランティアに参加



門前高校のソフトボール部員が門前中学校の部員を指導



門前高校バドミントン部と七浦中学校のバドミントン部の生徒ら

唱コンクールに同高校の生徒が出席。十二月には門前高校のボランティアグループが毎年地元老人ホームへ贈呈するために行っているそば作りが門前中学校、七浦中学校の生徒が参加し、そば打ちに挑戦しました。

ほか、高校のバドミントン部、ソフトボール部の練習に七浦中学校、門前中学校の生徒が加わるなど、生徒交流が進んでいます。

一方、富来町でも十月に、富来高校の国際コースの生徒二人が富来中学校でカナダでの語学研修の体験報告を行ったほか、両校のホッケー部が機会のあることに合同練習に励んでいます。

富来高校の大野堯校長は「今後は教職員の交流も増して、六年という期間を生かした体系的な学習や部活動を進めていきたい」と話しています。

推薦入学枠を広げ、受験勉強の負担を軽減

門前・富来両高校とも、連携する地元中学校からの入学者が多いことから、連携校からの推薦入学枠を平成十一年度から拡大しました。生徒らの受験勉強にかかっていた負担を軽減し、そこで生まれるゆとりを国際理解や地域文化の学習に充てていきたいとしています。



富来高校、富来中学校の男女ホッケー部が合同で練習



富来高校の国際コースの生徒らが富来中学校でカナダでの語学研修の体験報告をする

県教育委員会では両地域の実践研究で得られた成果をもとに十一年度末に中高一貫教育に関する基本構想をまとめ、教育の活性化につなげていく考えです。

お問い合わせ
県教育委員会学校指導課
☎076(223)9401

The Ishikawa Japanese Seminar

ほっとニュース

「石川ジャパニーズセミナー」

世界各国の若者たちが石川県で学ぶ
日本語・日本文化研修プログラム



生け花に真剣に取り組む日本語研修生

ホームステイ受入先を募集!

石川県内の家庭にホームステイしながら日本語と日本文化を学ぶ石川県国際交流協会の「石川ジャパニーズセミナー」が好評で、平成十年度、世界八カ国から一四五人の研修生を迎えました。県では、石川を世界に発信することにもつながる同事業をさらに推進するため、外国からの研修生を受け入れるホームステイ先について、県民の皆様の一層のご協力をお願いしています。

日常生活や文化も体験しながら日本語を研修

石川ジャパニーズセミナーは、日本に心をもち世界中の学生のために、日本語と日本文化を学習する機会を提供するものです。研修期間は研修プログラムによって様々ですが、約一カ月から三カ月。研修生は午前中は日本語学習、午後は課外研修として茶道や書道、生け花などの日本文化習得に励みます。

ホームステイは、短期間に集中して日本語の授業を受けると同時に、日常生活の中で日本の生活習慣や考え方に直接触れられることが、日本語の上達と日本の理解に大変役立つことから高い評価を得ています。

石川県が外国の学生から人気を集める理由には、「石川は日本文化の集積度が高く、人の温かみを感じられる」(県国際交流協会談) ことなどが挙げられます。一方、彼らを受け入れたホストファミリーからは、「ホームステイの交流を通して外国の事情や文化を知ることができ、視野が広がった」との声が寄せられています。

「いしかわ同窓会」が発足

ジャパニーズセミナーの研修生は累計で約九百人。アメリカやフランス、韓国などに加え、十年度は、新たにスイスやデンマークの学生が参加しました。ジュネーブ大学(スイス)の学生四人は、県のホームページでこの「石川ジャパニーズセミナー」を知り、参加したそうです。

また、石川県に滞在した経験のある外国人による「いしかわ同窓会」の会員募集も始まりました。会員は、帰国後も日本語についてのアドバイスを受けたり、インターネットなどを通じてホストファミリーや会員間の交流を深めたり、地域ごとの同窓会で親睦を深めることもできるようになりました。

帰国した研修生らは、石川県のよさをその母国でPRしてくれる「民間大使」でもあるのです。

毎年の日本語研修生の受け入れ増加に伴い、同協会では、国際交流ボランティアとして日本語研修生を受け入れていただくホストファミリーを募集しています。興味をお持ちの方は、同協会まで一度ご連絡下さい。



石川ジャパニーズセミナー受入状況(年度別)

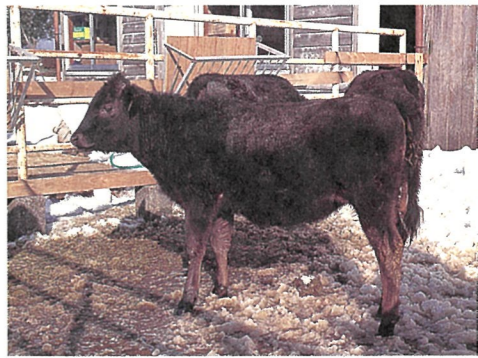
単位=人

大学・グループ名	S62 1987	S63 1988	H元 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998
アメリカ大学生グループ (プリンストン大学、ハーバード大学)	-	28	21	26	18	18	48	44	65	63	72	77
パリ第7大学(フランス)	-	-	-	-	-	-	7	7	7	7	7	7
韓国外国語大学(韓国)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	15	17
モナシュ大学(オーストラリア)	-	-	-	-	-	-	-	16	24	27	30	19
イルクーツク州日本語短期留学生(ロシア)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	3
ローザンヌ工科大学(スイス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
アメリカ中高生グループ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
ダートマス大学(アメリカ)	-	-	-	14	-	21	22	14	17	13	-	-
ケンブリッジ大学(イギリス)	-	-	-	10	3	7	6	4	8	-	-	-
ロンドン大学(イギリス)	13	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジュネーブ大学(スイス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
コペンハーゲンビジネススクール(デンマーク)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
計	13	39	21	50	21	46	83	85	121	123	127	145

●お問い合わせ
石川県国際交流協会
金沢市本町1-5-3
リファール3F
☎076(262)5931

「石川県畜産総合センター」 世界で初めて 体細胞クローン牛を実現。 能登牛の生産拡大に期待

昨年7月5日、世界で初めて成牛の体細胞を利用した双子のクローン牛を誕生させ、内外から注目を集める石川県畜産総合センター。県内における畜産業の振興を研究開発の面からバックアップする同センターを、中田京子さんが訪ねました。



▲晴れた日は飼養しているクローン牛を屋外へ

遠い空想の 世界が現実

「のと」「かが」の誕生は、大きなニュースになりました。クローンは例えば優良な肉質の肉牛を数多く生産するのに、とても役立つ技術です。一頭の優良な肉牛がいれば、その細胞を使って何頭もそっくり同じ牛を産ませることができるとのことです。

これまではクローンというと、SF小説か漫画に出てくる生き物のコピーを作る空想の技術のように思っていて、イギリスでドリーというクローン羊が誕生したニュースもどこか遠い世界のこのような感じでした。ところが、自分の住む県の畜産研究施設がクローンを実現したということ、とてもびっくりしました。

四つの研究科で 畜産技術を研究

石川県の畜産業は、国内外の産地間競争や輸入量の増大、価格の低迷などにさらされています。河北潟の酪農規模は全国的にも上位に位置し、肉牛も「能登牛」のブランドを打ち立てているものの、高付加価値の生産には至っていません。

県畜産総合センターは、こうした環境の中で、県内畜産物の品質や競争力、付加価値の向上を目指して試験・研究に取り組んでいます。

規模は、用地二・一ヘクタール、草地二・四ヘクタール。牛豚を約四百頭、鶏を三百羽飼養しています。

現在、家畜の改良・増殖をはじめ、肉用牛、酪農、養豚、養鶏、環境保全、飼料作物な



▲豚の改良も重要な試験研究の課題



▲クローン牛と中田さん

●リポーター
金沢市若草町
なかだきょうこ
中田京子さん
金沢市出身。タクシー乗務員。アスレチックジムに通って普段から健康維持に気を使っているそうで、休日は友達と温泉巡りに出掛けるのが趣味だそうです。

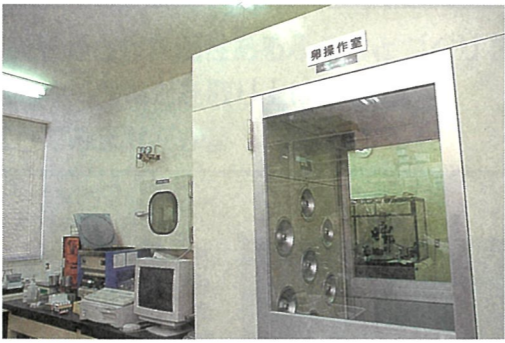


どに関する試験研究とその成果の普及に関する業務や飼料の分析業務を十七名の技官の方が行っています。研究棟におじゃまして、その様子を見学させていただきました。

飼料の分析や 糞尿処理に についても研究

研究棟では、県内各地で生育された家畜用飼料の分析や家畜の出す糞尿の処理技術の開発などが進められていました。畜産には「におい」がつきものです。かつては豚や牛、鶏の畜舎は民家から離れたところにありました。しかし近年では、住宅地がそうした施設の近くにまで進出し、においが住民に迷惑をかけてしまうケースも増えています。そこで双方が共生できるように、この臭気をカットするための技術開発を行っているそうです。

このほか、豚肉や鶏卵、牛乳に含まれる脂肪酸に関する研究も行われていました。脂肪酸には人の体にやさしい不飽和脂肪酸と、摂取しすぎる



▲卵操作室とその手前にあるエアシャワー



▲県内の農家から送られてきた飼料の栄養を分析

体細胞クローン牛 と対面

最後に、屋外でクローン牛を見せていただきました。のと、かが、のと二号、かが二号、のと三号の五頭の体細胞クローン牛が仲良く日に当たっていました。いずれも生後半年ほどの肉牛です。五頭の遺伝子はまっ

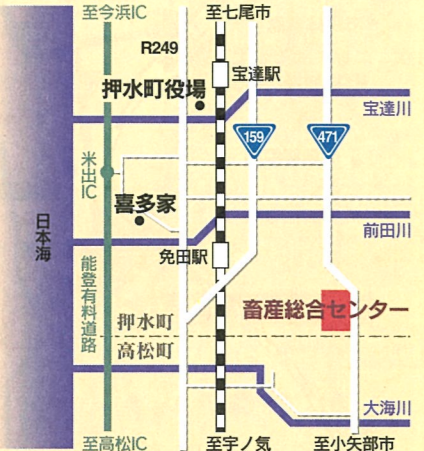


▲鶏を300羽飼養している

たく一緒なので、外見的にはそっくりです。素人目には見分けが付きませんでした。親牛がワクチンの接種で作った抵抗力が、クローン牛にも引き継がれているのかどうかなど、これから研究を進めていくそうです。

クローンというと、ちょっと近寄りたくないイメージもあったのですが、元気な子牛たちの姿を見ると、ふつうの肉牛の生産と変わらないなあと感じました。

泉さんのお話でも、新しい生産技術を使っているだけで牛そのものは他とかわらないんですよとのこと。体細胞クローン技術を使って、おいしい能登牛がたくさん生産されることを期待したいですね。



石川県畜産総合センター
石川県羽咋郡押水町
字坪山ナ部93-2

TEL.0767(28)2284
FAX.0767(28)3531

石川県には、41の市町村があり、それぞれ工夫を凝らした個性あるふるさとづくりを進めています。このコーナーでは、各市町村のタイムリーな話題や施設などを取り上げました。お住まいの市町村以外へも、ちょっと足をのばしてみませんか。

市町村トピックス

七尾市 NANAO

七尾市は今年、七尾港開港百周年と市制施行六十周年を迎えました。春から秋にかけて、記念行事がめじろ押しです。ご家族やお友達とお気軽にお出かけください。

●開港百周年・市制六十周年記念事業
港と海をテーマに、多彩なイベントで情報を発信

明治三十二年の七尾港開港以来、七尾市は港を核に人・もの・情報が行き交う街として発展を続けてきました。また、新鮮な日本海の幸や和倉温泉などの観光資源にも恵まれ、能登の観光拠点としてもにぎわいをみせています。「海を越え 世界へ躍進 七尾の未来」をキャッチフレーズに開催する記念事



豪華客船「飛鳥」

業では、七尾市の歴史を振り返るとともに、二十一世紀に向け飛躍を目指す七尾市の魅力を国内外に発信します。

府中緑地が港の新たなシンボルに

記念事業は、四月二十四日から石川県七尾美術館で始まる「白山記念館所蔵茶道美術名品五十選展」を皮切りに、十一月まで随時、開催します。

七尾港の一角で現在、造成中の府中緑地では、七月十一日から「海の日の同二十日まで、メインの開港百周年事業が多彩に繰り広げられます。七月十八日から七月二十日には、七尾港まつりや能登国際テント村、姉妹都市の一つである丸亀市(香川県)の物産展をはじめ、海に関する展示会や写真展などを予定しています。

このほか、港と海にちなんだ行事が盛りだくさんです。市民等を対象に豪華客船「飛鳥」の船内を公開する内覧会や子供生大会。五月四日、五日には海上保安部巡視船「えちご」、五月七日から五月十一日には運輸省航海



七尾市地図

訓練所所属の帆船「日本丸」が来航します。九月には海上自衛隊護衛艦などの一般公開などもあり、目が離せません。

●記念行事開催予定

- 白山記念館所蔵茶道美術名品五十選展
四月二十四日(土)～五月三十日(日)
場所/石川県七尾美術館
茶道美術の逸品を紹介
- ジュリアの自慢
六月二十七日(日)
場所/七尾サンライフプラザ
- NHK BSによる公開番組
- 七尾港開港百周年記念
「七尾港を描く会」記念展
七月八日(木)～七月十二日(月)
場所/石川県七尾美術館
県内外からの一般公募による七尾港の作品展
- 七尾港開港百周年記念物産展
七月十八日(日)～二十日(火)
場所/七尾港府中緑地
・姉妹都市丸亀市物産展
・海事関係展示会(自衛隊、海上保
- 豪華客船「飛鳥」内覧会
九月七日(火)
場所/七尾港
- 豪華客船「飛鳥」の船内を見ること
ができます(要申込)
- 中能登舞台音楽劇
ザ・シーサイドマンショー七尾
十一月十四日(日)
場所/七尾サンライフプラザ
- 七尾の歴史をナレーションした歴史音楽劇
- 【お問い合わせ】
七尾市役所企画財政課内
記念事業実行委員会事務局
七尾市袖ヶ江町イ部25
☎0767(53)1117
担当 小川・松崎

美川町 MIKAWA

手取川の河口に位置する美川町は、北前船の行き交う港町として栄え、明治時代には県庁が置かれたこともありました。その歴史の面影を探訪してみませんか。

●おかえり祭り 絢爛豪華な台車が見どころ

約二百五十年の伝統を誇る美川町の「おかえり祭り」が五月十二、十三日に行われます。二十二日早朝、美川町南町にある藤家神社から紋付き袴姿の若衆が吹くラッパに先導されて、神輿と木工、漆芸、金工などが施された壮麗な十三台の台車が出発。町内を練り歩き、深夜、御旅所に到着します。

翌二十三日夜、神輿は御旅所から「おかえり筋」の男衆に担が

れ、提灯がずらりと並ぶ「おかえり筋」を通り、二十四日未明、本殿へ帰ります。「おかえり筋」は、十年に一度、町内会単位で巡ってくるもので、おかえり筋の家々では、親類や友人を招いてご馳走をふるまいます。

人間的なふれあいに満ちたお祭りに、ご家族で足を運んでみてはいかがでしょうか。



紋付き袴姿の男衆が神輿をかつぎ町内を練り歩く

●美川コミュニティプラザ「ふれ愛」
たくさんの人々の交流の場

コミュニティプラザ「ふれ愛」は、美川町の玄関口「JR美川駅」の改築に合わせて平成七年五月にオープンした町の新しい顔です。

一階は二百人収容の「ふれ愛ホール」、二階は特産品販売コーナーや日本海の魚が泳ぐ大型水槽を設けた「ふれ愛ふるさと館」となっています。ユニークでモダンな外観も人気で、駅利用者だけでなく、町内外から訪れる多くの人でにぎわっています。

●【お問い合わせ】
財団法人ふるさとみかわ
石川県美川町字中町
口221番地1
☎076(278)7788
利用時間/
午前8時～午後6時
年末年始のみ休館



美川コミュニティプラザ「ふれ愛」



呉竹文庫

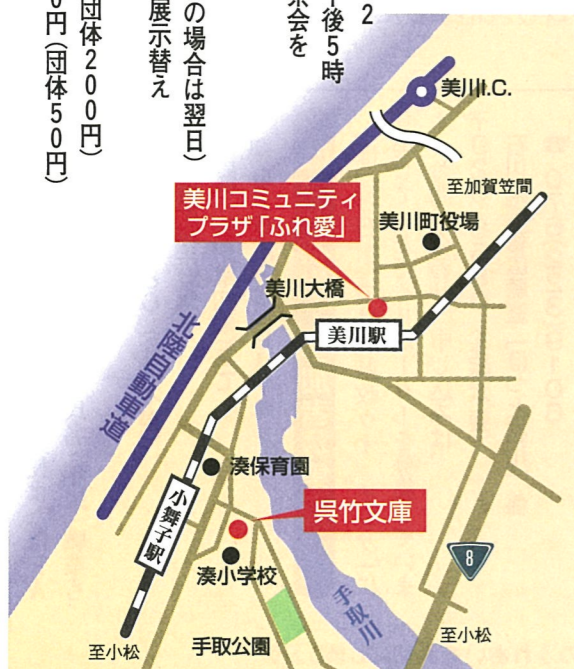
●呉竹文庫 土蔵を利用した書庫は必見

呉竹文庫は、北前船主だった熊田屋分家三代目源太郎氏が収集した、明治二十年から昭和十年ごろまでの宗教や国文学の貴重本など約一万二千八百冊を一般公開しています。

土蔵造りの書庫と展示室では、貴重な蔵書の閲覧や掛け軸などの美術品、古文書が展示されているほか、館内は定例呈茶会や各種文化活動の場としても開放されています。

●お問い合わせ

呉竹文庫
石川県美川町字湊町
ヨ146番地
☎076(278)6252
開館時間/午前9時～午後5時
毎月第3日曜日定例呈茶会を
開催
休館日/毎週火曜日
(火曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始、資料展示替え
整理期間
入館料/一般300円(団体200円)
小中高生100円(団体50円)



美川町地図



スポレク石川2000マスコット
「ゆめまる」

第13回全国スポーツ・レクリエーション祭

スポレク石川2000

石川で ふれあう元気・ゆめ・未来

平成12年9月30日(土)～10月3日(火)4日間

来年9月、7市15町で開催
スポーツを通して交流の輪を広げよう

2000年(平成12年)秋に、石川県で第13回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク石川2000」が開催されます。

全国スポーツ・レクリエーション祭は、勝敗を「競う」ことよりも年齢や体力にあったスポーツ・レクリエーションを楽しみながら、世代や地域を超えて「交流」を広げる生涯スポーツの祭典です。

「スポレク石川2000」では、都道府県の代表が参加するグラウンド・ゴルフなど18種目や、誰でも参加できる健康マラソン、ウォークラリーなど7種目のほか、家族で楽しめるイベント、シンポジウムなどが開催されます。

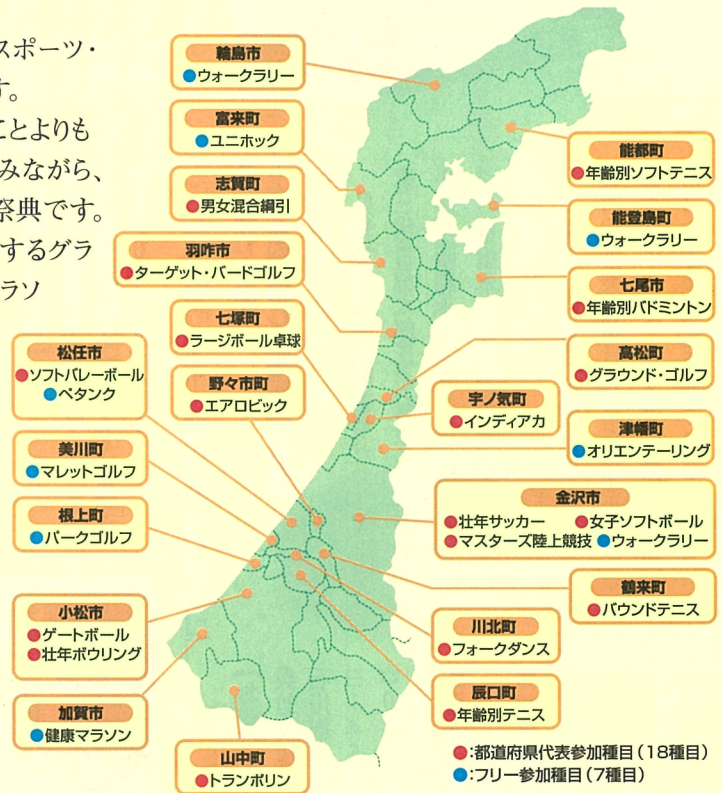
スローガン及びマスコットと愛称は、昨年、全国公募し、海外を含め県内外から多数の応募がありました。

スローガンは、石川県で人々が元気に交流し、明るい夢のある未来を願い、「石川で ふれあう元気・ゆめ・未来」となり、マスコットは、石川県の鳥であるイヌワシをモチーフにしたもので、愛称は「ゆめまる」に決定しました。

今後、県民スポーツ・レクリエーション祭や各種イベントでの実施種目の紹介、会場地市町での普及教室などが開催される予定です。

いろんな種目を体験して、自分にあった生涯スポーツを見つける機会にしてください。

種目別大会会場地(7市15町)



「スポレク石川2000」に関するお問い合わせは

石川県県民文化局
全国スポーツ・レクリエーション祭準備室
☎ 076(222)3090 FAX 076(222)2339

前略 石川県知事

県政に対するご提言などを郵便またはFAXでお寄せ下さい。住所・氏名・年齢・職業も明記して下さい。

〒920-8580 (住所不要)

石川県報広聴室

『前略 石川県知事』あて

☎ 076(222)9474

ほっと石川・参加者募集

「ほっと石川」では、「県政ウオッチング」に登場していただくリポーターを募集しています。お問い合わせ、申し込みは、

〒920-8580 (住所不要)

石川県報広聴室「ほっと石川」係

☎ 076(222)9106

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。

? クイズみんなでチャレンジ

全問正解者の中から抽選で50名の方に、畜産にちなんだテレホンカードをプレゼントします。ふるつて応募ください

Q1 世界初の体細胞クローン牛の名前はどれでしょう?

①「ドリー」と「メリー」 ②「宝蓮」と「免田」
③「の」と「かが」

Q2 石川県畜産総合センターは、何町にあるでしょう?

①高松町 ②押水町 ③志雄町

Q3 石川県畜産総合センターで飼養していない家畜はどれでしょう?

①エミュー ②牛 ③豚

はがきに、クイズの答えと住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、〒920-8580 (住所不要) 石川県報広聴室「ほっと石川」係までお送りください。
締め切りは平成11年5月31日(当日消印有効)